

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和元年度農作物病虫害発生予察情報について

令和元年度農作物病虫害発生予報第10号を発表したので送付します。

令和元年度農作物病虫害発生予報第10号

令和元年11月6日
徳島県

I. 果樹

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1)10月(第1～4半旬)の予察灯による誘殺数は、ツヤアオカメムシについては、勝浦町では84頭と、平年(734頭)に比べて少ないが、上板町では106頭と平年(113頭)並に推移している。一方、チャバネアオカメムシについては、勝浦町では46頭と平年(404頭)に比べて少なく、上板町でも8頭と平年(20頭)に比べてやや少なく推移している(表1)。

表1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月・半旬	勝浦町					上板町				
	2019年	2018年	2017年	2016年	平年	2019年	2018年	2017年	2016年	平年
9・5	27	619	410	277	187	23	14	42	3	18
9・6	133	150	524	631	193	33	18	166	15	39
10・1	44	975	218	773	280	10	94	179	34	53
10・2	5	166	855	252	272	26	27	43	35	29
10・3	8	130	210	31	116	11	7	20	5	18
10・4	27	71	103	132	66	59	7	15	5	14

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月・半旬	勝浦町					上板町				
	2019年	2018年	2017年	2016年	平年	2019年	2018年	2017年	2016年	平年
9・5	10	882	93	133	218	4	12	69	10	11
9・6	31	124	145	216	90	11	2	40	4	6
10・1	27	1140	31	406	206	4	45	88	2	15
10・2	13	185	132	68	169	1	8	4	1	4
10・3	5	16	23	3	21	1	0	1	1	1
10・4	1	8	0	23	8	2	0	1	0	0

(2)10月第5半旬におけるカンキツの巡回調査では、被害発生圃場率が62.5%と、平年(30.6%)に比べて高いが、被害果率は1.3%と、平年(1.0%)並の発生である。

(3) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 温州ミカン、カキやキウイフルーツ園等では、飛来を認めたら早急に防除を行う。

II. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第5、6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(2) 本病の初発時期は平年、11月第6半旬である(発生圃場率が8.9%、発病度が0.8)。

(3) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。

(2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(3) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉裏を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。

(4) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行う。

オンシツコナジラミ

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 10月第5、6半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、寄生葉率が0.4%と、平年(31.4%、0.7%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。

タバココナジラミ(バイオタイプB, バイオタイプQ)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 10月第5、6半旬の巡回調査では、発生圃場率が75.0%、寄生葉率が7.1%と、平年(46.5%、3.0%)に比べてやや高い。

(2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。

(2) ネオニコチノイド系剤の一部(ジノテフラン以外の剤)、及び合成ピレスロイド系剤に対する感受

性が低いことが報告されているバイオタイプQに対しては、ジノテフラン、ニテンピラム、スピロメシフェン、ピリフルキナゾン、デンブン、オレイン酸ナトリウム等の剤が有効であるとされている。

(3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 10月第5, 6半旬の巡回調査では、発生圃場率が42.9%と、平年(37.6%)並の発生であるが、発病葉率は8.7%と、平年(2.4%)に比べて高い。

(2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(2) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第5, 6半旬の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、発病葉率が0.4%と、平年(3.1%, 0.1%)に比べてやや高い。

(2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(2) 発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬液は下葉の葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第5, 6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)10月第5, 6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が11.2%, 寄生葉率が3.2%)。
 - (2)高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 平年に比べ晴れの日が多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。
- 3)防除上注意すべき事項
- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので, 薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

ミナミキイロアザミウマ

- 1)予報内容
発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」
- 2)予報の根拠
- (1)10月第5, 6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が57.1%と, 平年(68.8%)並の発生であるが, 寄生葉率は2.3%と, 平年(14.7%)に比べて低い。なお, 被害果実は認められていない。
 - (2)高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 平年に比べ晴れの日が多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。
- 3)防除上注意すべき事項
- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナジラミ類(オンシツコナジラミ, タバココナジラミ)

- 1)予報内容
発生量 平年より多く(前年よりやや多い), 発生程度は「多」
- 2)予報の根拠
- (1)10月第5, 6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が85.7%と, 平年(66.0%)に比べてやや高く, 寄生葉率も22.7%と, 平年(7.5%)に比べて高い。
 - (2)高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 平年に比べ晴れの日が多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。
- 3)防除上注意すべき事項
- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

秋冬ダイコン

アブラムシ類

- 1)予報内容
発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」
- 2)予報の根拠
- (1)10月第5, 6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が35.5%, 発生程度指数が1.2)。
 - (2)高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 平年に比べ晴れの日が多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。
- 3)防除上注意すべき事項
- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アブラナ科野菜共通

黒腐病

- 1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第5, 6半旬の巡回調査では、発生圃場率が23.5%と、平年(10.2%)に比べてやや高いが、発病度は0.9と、平年(0.7)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除効果が期待できない場合が多いので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。
- (2) 害虫による食害痕も病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も行う。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第5, 6半旬の巡回調査では、発生圃場率が82.4%と、平年(69.4%)に比べてやや高いが、寄生株率は15.6%と、平年(15.1%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第5, 6半旬の巡回調査では、発生圃場率が41.2%と、平年(21.4%)に比べて高く、10株当たり寄生幼虫及び蛹数が0.2頭と、平年(0.1頭)に比べてやや多い。
- (2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉裏に生息しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

モンシロチョウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第5, 6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.8%と、平年(18.0%)並の発生であるが、10株当たり寄生幼虫数は0.0頭と、平年(0.2頭)に比べてやや少ない。
- (2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 若齢幼虫時の防除に努める。

秋冬ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.1%、発病株率が0.0%)。

(2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除効果が期待できない場合が多いので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。

(2) 肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%と、平年(5.6%)に比べてやや高いが、寄生株率は0.2%と、平年(0.1%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、被害度が2.6と、平年(51.8%、2.8)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が77.8%と、平年(90.0%)に比べてやや低く、被害度も1.3と、平年(11.1)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 被害葉は有力な発生源となるので、圃場周辺に放置せずに、速やかに処分する。

冬レタス

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.7%、寄生株率が0.2%と、平年(19.9%、0.9%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

冬春ホウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 徳島県では、本病原菌レース1～13まで確認されているため、品種はレース1～13に抵抗性があるものを利用する。

(2) 病原菌は被害株上で越冬し、春になると分生胞子を形成して伝染源となる。春先の発生を抑制するために、薬剤を予防的に散布して伝染を防止する。

(3) 葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が15.4%、1株当たり寄生虫数が0.1頭)。

(2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難となるので初期防除に努める。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第5、6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が5.1%、発病葉率が0.1%)。

(2) ビニール被覆後は発病好適環境となるため、増加するものと予想される。

(3) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か

少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 古葉を早めに除去し、葉裏に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が14.3%と、平年(31.0%)に比べてやや低いが、寄生株率は2.9%と、平年(3.7%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、寄生葉率が1.1%と、平年(35.1%、2.9%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第5、6半旬のアブラナ科野菜(ブロッコリー・カリフラワー)における巡回調査では、発生圃場率が76.5%、寄生株率が9.5%と、平年(47.8%、4.4%)に比べて高い。また、冬レタスでは、発生圃場率が7.7%、寄生株率が0.3%と、平年(8.3%、0.2%)並の発生である。
- (2) 10月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査9圃場の平均)は、第1半旬に急増し、第1～4半旬の誘殺数は2,125頭と平年(1,804頭)に比べてやや多い(図1)。

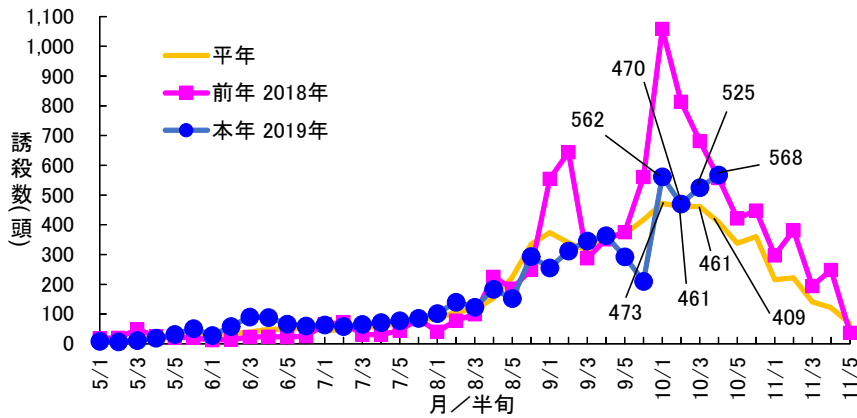


図1ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市,東みよし町,三好市の9地点平均

(3) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並～やや多), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬における冬レタスの巡回調査では、発生を認めていない。

(2) 10月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)は、第1半旬から増加し、第1～4半旬の誘殺数は213頭と平年(158.5頭)に比べてやや多い(図2)。

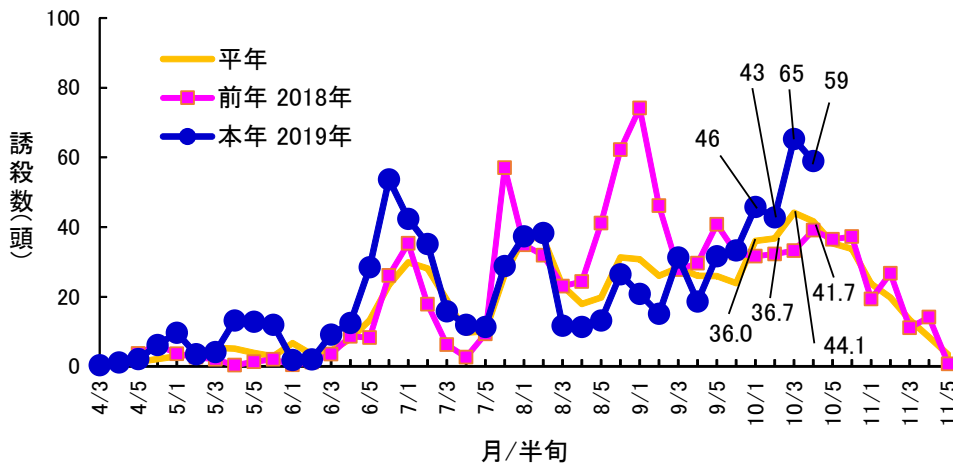


図2 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移
* 阿波市,三好市,東みよし町,石井町の6地点平均

(3) 高松地方気象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 結球野菜では、幼虫食入後は薬剤の効果が無いので、結球直前までに、使用基準に基づき必ず薬剤防除を行う。

II. その他

1. 薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守すること。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL：<https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

- 病害虫の発生予察情報，発生状況，防除法等をお知らせしています。